

浜松版地域日本語教師養成講座

「生活者としての外国人」に日本語を教えることには、どんな意義があるでしょう？
仕事や結婚、家族で移住など、来日した目的が違う上、母国での生活や環境が多様な彼らへの日本語教育は、いつ、誰が、どのように行うのが良いのでしょうか？
外国人住民と同じ地域で暮らし、より良い地域を共に作るためには共通言語が必要であり、そのためには地域で活動する日本語教師の存在がますます重要となってきます。
本講座は、政府の動き、異文化コミュニケーション、やさしい日本語等の多文化共生に資する日本語教育について学ぶ講座（知識）と、地域の特徴や学習者のニーズに即した日本語教育を行うための教授法等を学ぶ講座（実践）の二本立てで行います。
地域で日本語教育活動を行うことに興味のある方、ぜひご参加ください！

期間：平成 28 年 **9 月 17 日**（土）～平成 29 年 **2 月 18 日**（土）

会場：浜松市多文化共生センター（クリエート浜松 4F）

対象：日本語教師有資格者

費用：全 30,000 円

定員：15 人（先着順）

申込（共通）

浜松市外国人学習支援センター（U-ToC）へ。
電話 (053-592-1117)、FAX (053-592-1179)、
E-mail (u-toc_info@hi-hice.jp) のいずれかで、
氏名、住所、電話番号、日本語教師資格の種類、
所属をお知らせください。

多文化共生に興味がある方向けに講座の一部を公開します。

【連続公開講座（詳細は裏面）】

期間：平成 28 年 9 月 17 日（土）～10 月 29 日（土）（全 10 回）

対象：多文化共生に関心のある方なら誰でも

費用：全 5,000 円

定員：50 人（先着順）

著名な講師陣の講義を
連続して聞けるのは
浜松だけ！

公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）

静岡県浜松市中区早馬町 2-1 クリエート浜松 4F

Tel. 053-458-2170 Fax. 053-458-2197

<http://www.hi-hice.jp/index.php>



連続公開講座 (全 10 回)

一般対象

1	9月17日(土) 13:30～15:30	地域理解 (浜松市の現状)	HICE
2	9月17日(土) 15:40～17:10	地域理解 (浜松市で行われている取組)	HICE
3	9月24日(土) 13:30～15:00	異文化コミュニケーション (寄り添う力)	原沢伊都夫 (静岡大学教授)
4	9月24日(土) 15:10～16:40	異文化コミュニケーション (つながる力)	原沢伊都夫 (静岡大学教授)
5	10月1日(土) 9:30～10:45	世界の移民統合施策	山脇啓造 (明治大学教授)
6	10月1日(土) 11:00～12:30	浜松市の多文化共生施策	山脇啓造 (明治大学教授) 石塚良明 (浜松市国際課課長)
7	10月8日(土) 13:30～15:00	言語政策と地域日本語教育	河原俊昭 (岐阜女子大学特任教授)
8	10月8日(土) 15:10～16:40	やさしい日本語から多文化共生を考える	水野義道 (京都工芸繊維大学教授)
9	10月29日(土) 13:30～15:00	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ	藤原孝章 (同志社女子大学教授)
10	10月29日(土) 15:10～16:40	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ	藤原孝章 (同志社女子大学教授)

【講師紹介】※敬称略

原沢伊都夫 (はらさわいつお)

静岡大学国際交流センター教授。専門は日本語学、日本語教育、異文化コミュニケーション。著書に「日本人のための日本語教育文法」など。

山脇啓造 (やまわきけいぞう)

明治大学国際日本学部教授。世界の移民政策に精通した日本の多文化共生施策の第一人者。10年に渡り外国人集住都市会議アドバイザーとして様々な政策を提言。

河原俊昭 (かわはらとしあき)

岐阜女子大学文化創造学部特任教授。専門は言語政策、英語教育、アジアの英語。編著に「世界の言語政策 第1～3集」など。

水野義道 (みずのよしみち)

京都工芸繊維大学基盤科学系教授。留学生へ日本語を教える傍ら、やさしい日本語研究会に所属しその普及に努めている。

藤原孝章 (ふじわらたかあき)

同志社女子大学現代社会学部教授。多文化共生のジレンマをリアルに実感できる教材「ひょうたん島問題」を開発。教材は全国の学校等や国際交流協会等でも採用されている。



実践講座

日本語教師
対象

対話力や自己教育力、浜松版日本語コミュニケーション能力評価システム (HAJAC システム) について学ぶほか、グループワークやプロジェクトワーク等の実践活動を通じて、地域で日本語教育を行うために必要な力を養います。講義を聞いて学ぶ座学ではなく、主体的に考えて動く実践講座です。



- ①11月5日 (土) 10:30～16:10
- ②11月12日 (土) 13:30～16:40
- ③12月3日 (土) 13:30～16:40
- ④12月10日 (土) 10:30～16:10
- ⑤12月17日 (土) 10:00～11:30

- ⑥1月28日 (土) 13:30～16:40
- ⑦2月4日 (土) 13:30～16:40
- ⑧2月12日 (日) 10:00～11:30
- ⑨2月18日 (土) 13:30～15:30

※スケジュールは変更になる場合があります。
詳細は、初回でお知らせいたします。

【講師紹介】※敬称略

嶋田和子 (しまだかずこ)

一般社団法人アクラス日本語教育研究所代表理事。U-ToC でも使用しているテキスト「できる日本語」の著者。常に進化し続ける講義で世界中にファン多数。

坂本勝信 (さかもとまさのぶ)

常葉大学経営学部准教授。日本語能力試験対策本の著書多数。ソフトな語り口と豊富な知識に基づいたわかりやすい解説で学習者から人気。

田尻悟郎 (たじりごろう)

関西大学外国語学部教授。専門は英語教育。中学校の教員時代には生徒の心に火をつける熱い実践者として活躍。NHK E テレ「テレビで基礎英語」の監修、出演なども。

イシカワ エウニセ アケミ

静岡文化芸術大学教授。専門は移民研究。大学や専門学校進学を果たした在日日系ブラジル人を対象にインタビュー調査を実施。日系ブラジル人のエスニック・アイデンティティを研究テーマとしている。



多文化共生理解のための連続公開講座

平成28年度文化庁委託事業

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)主催 「多文化共生理解のための連続公開講座」(全10回)
9月17日、24日、10月1日、8日、29日(土)(5日間・全10回)

仕事や結婚、留学、家族で移住など、日本で生活する外国人が増えているのはご存知ですか？
外国人住民と同じ地域で暮らし、より良い地域を共に創るためには、多文化共生への理解が鍵となります。本講座では、著名な講師陣をお迎えし、多文化共生の理解を深めます。

こんな方にオススメ！

- ★職場に外国人の同僚が多い方
- ★仕事で外国人の大人や子どもに関わる方
- ★子どもの友達に外国人の子がいるという方
- ★近所に外国人の家族が引っ越してきたという方
- ★多文化共生に関心ある方



本講座では以下のことが学べます！

- ★浜松市に外国人の方が多く住む理由や背景について
- ★異文化コミュニケーションで世界の価値観を理解し、違いを認めることについて
- ★世界の移民統合政策と日本の多文化共生施策の比較について
- ★やさしい日本語について（災害時に役立ちます）
- ★多言語化・多文化化や言語政策について（新しい視点が学べます）
- ★多文化共生の理想と現実について（ひょうたん島ワークショップで実感！）

詳細は裏面へ！

受講後は、

- ★U-ToCの日本語ボランティア養成講座を受講し、日本語学習支援ボランティア活動を始める！
 - ★民間の日本語教師養成講座を受講し、日本語教師になる！
 - ★HICEボランティアバンクへ登録し、イベント等の交流を通じて多文化共生の地域をつくる！
- など、興味のあることへつながるお手伝いをいたします。

本公開講座は、浜松版地域日本語教師養成講座の一部です。

日本語教師有資格者の方は、ぜひ後半の実践講座も併せて受講ください。
詳細は、HPへ。

HICE 浜松版地域日本語教師養成講座

検索

お申込は
こちら！

浜松市外国人学習支援センター (U-ToC)
Tel. 053-592-1117 Fax. 053-592-1179
E-mail. u-toc_info@hi-hice.jp

多文化共生理解のための連続公開講座

【日程】

9月17日、24日、10月1日、8日、29日(土)(5日間・全10回)

著名な講師陣から連続で
講義を受けられるのは
浜松だけ！

回	日時	内容	講師
1	9月17日(土) 13:30~15:00	地域理解 浜松市の外国人住民の現状、在留資格	公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)
2	9月17日(土) 15:30~17:00	地域理解 市内日本語教室、ボランティアの取組	公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)
3	9月24日(土) 13:30~15:00	異文化コミュニケーション①(寄り添う力) 世界の価値観を理解し、違いを認める	原沢伊都夫氏 (静岡大学教授)
4	9月24日(土) 15:10~16:30	異文化コミュニケーション②(つながる力) アサーティブ・コミュニケーションを学ぶ	原沢伊都夫氏 (静岡大学教授)
5	10月1日(土) 9:30~10:45	世界の移民統合政策 ヨーロッパを中心に世界の移民統合政策を学ぶ	山脇啓造氏 (明治大学教授)
6	10月1日(土) 11:00~12:30	国(浜松市)の多文化共生施策 日本の多文化共生施策と先進地域の浜松市の取組について学ぶ	山脇啓造氏 (明治大学教授) 石塚良明氏 (浜松市国際課課長)
7	10月8日(土) 13:30~15:00	言語政策と地域日本語教育 多言語化・多文化化について学び、日本の多文化共生の姿を探る	河原俊昭氏 (岐阜女子大学特任教授)
8	10月8日(土) 15:10~16:40	やさしい日本語から多文化共生を考える やさしい日本語の理論を学び共生のための日本語について考える	水野義道氏 (京都工芸繊維大学教授)
9	10月29日(土) 13:30~15:00	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ① 架空の島(ひょうたん島)で起こる多文化共生のジレンマをワークショップで学ぶ	藤原孝章氏 (同志社女子大学教授)
10	10月29日(土) 15:10~16:40	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生のジレンマ② 架空の島(ひょうたん島)で起こる多文化共生のジレンマをワークショップで学ぶ	藤原孝章氏 (同志社女子大学教授)

【費用】(1回1,000円のところ)全10回で5,000円 【定員】50人 【会場】浜松市多文化共生センター
【問い合わせ】浜松市外国人学習支援センター(Tel. 053-592-1117)

HICE  は、浜松市多文化共生センターと浜松市外国人学習支援センターの事業運営を市から受託しています。

 浜松市 多文化共生センター
Hamamatsu Intercultural Center

 浜松市 外国人学習支援センター
Hamamatsu Foreign Resident Study Support Center
Centro de Apoio ao Estudo para Estrangeiros de Hamamatsu

多言語
相談

地域
共生

国際
理解



日本語
教室

多文化
体験

ポルト
ガル語
教室



＜本講座はU-ToCにほんご教室 初中級クラスの学習者が、日本語学習の一環として企画・運営・発表を行います＞

ほんと!?日本との違い

～日本と外国の文化や習慣をみんなに教えます～

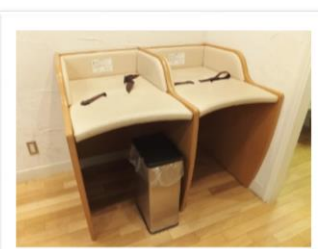
私たちはいろいろな国から日本に 来ました。
日本に来てから、自分の国と日本では、
文化や習慣にいろいろな違いがあることがわかりました。
皆さんに、私たちが経験した文化の違いを紹介したいと思います。



なんで
氷が 入っているの？



日本では
生卵を 食べるの？



9 月12 日 (月) 10:30～12:00

場 所：浜松市外国人学習支援センター (U-ToC)

参加費：無 料

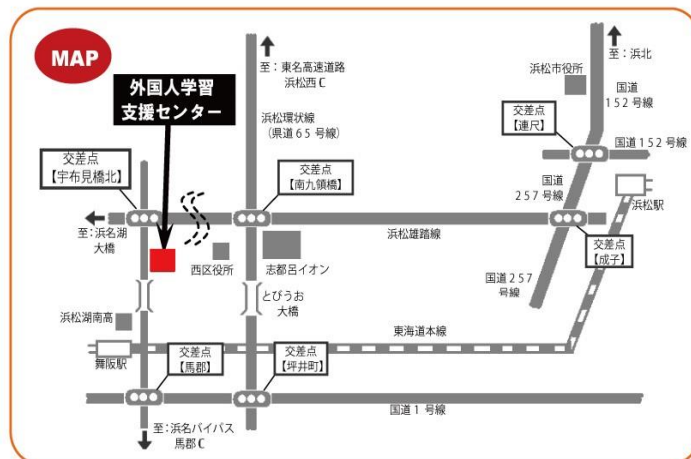
定 員：20名

申込み：電話または来所にてお申込みください。(先着順)

浜松市外国人学習支援センター

浜松市西区雄踏町宇布見 9 6 1 1 - 1

TEL : 0 5 3 - 5 9 2 - 1 1 1 7





U-ToC日本語教室発表会

日本で気になる、 あのことについて調べました！

外国人学習者が日本に住んでいて気になっていたことについて、アンケートを取り、調べました。日本人が普段気に留めていないことでも、外国の人は疑問に感じていることも多く、「なるほど〜！」というテーマがあるはずです。ぜひ、この機会に発表を聞いてみませんか？
今回は、日本語教室の成果発表会のため、日本語で発表します。

日 時：2月20日（月） 10：30～12：00

場 所：浜松市外国人学習支援センター（U-ToC）

受講料：無料

定 員：20名

申 込：電話または来所にてお申し込みください。

ユートック

浜松市外国人学習支援センター（U-ToC）

〒431-0102 静岡県浜松市西区雄踏町宇布見9611-1

☎053-592-1117



みどころ ポイント

U-ToC日本語教室発表会

2月20日(月)10:30~12:00

初中級クラスでは、プロジェクトワークを行っています。各学習者が各自でテーマを決め、アンケートを取って調べました。今回はアンケート結果や、それをもとに分かったことや感想・意見をお話します。学習者から、「知らなかった新しい日本人像」や「今まで分からなかった日本の社会のしくみ」が見えてきたと声があがりました。一体どんなことがみえたのか、一緒に発表を聞いてみませんか？少し早いですが、今回は特別に発表内容の一部をご紹介します。



Aさん
(ベトナム)

テーマ: どうして日本人の女性はいつも化粧をしているの？

ベトナムでは、あまり化粧をしている人がいません。日本人はいつもお化粧をしているのはどうして？日本人の女性は、化粧が好きなんですか？

アンケート(一部抜粋)

Q.化粧が好きですか？

Q.化粧することが出来ないとき、どんな気持ちですか？

Q.どうして化粧をしますか？

このアンケートをする前、私は日本の女性が自分がきれいになるために化粧をすると思っていました。でも、アンケート結果を見て違うことが分かりました。きれいな顔で人の前に出るのがマナーだからです。

→続きは 2月20日の発表にて

テーマ: どうして日本の親は子どもと一緒に住まないの？

ペルーでは、親と一緒に住んでいる人が多いです。子どもが多いからだと思いますが、日本ではどうして一緒に住まないんでしょうか？少し悲しい気がします。

アンケート(一部抜粋)

Q.親が年をとった時に一緒に住みたいですか？

Q.親を面倒みることがたいへんだと思いますか？

Q.自分が歳をとった時、子どもに世話をしてもらいたいですか？

このアンケートをして、一番不思議なことは、親が歳をとった時に54%の人は「一緒に住みたい」と思っていますが、その人達が歳をとったら、自分の子どもに世話をしてもらいたい人は26%しかいませんでした。日本人は迷惑を掛けないことを大切に思っています。

→続きは 2月20日の発表にて



Bさん
(ペルー)

他にも・・・

「どうして日本人女性は30歳を過ぎても細いの?」「日本人の子どもが自分で学校へ行くこと」「学校のいじめ」などに

ついてもお話する予定です。

日本人にとっても、外国人にとっても、異文化理解に繋がるお話ばかりですよ！この機会をお見逃しなく！



母のパスポート（昭和 35 年）

写真で語る私の歴史

～これまでの私とこれからの私～

私は、子供の頃にブラジルへ移民した日系 1 世です。7 歳の時に父がテレビコマーシャルを見てブラジル移住を決意し、一家でブラジルへ渡りました。当時、母が大反対して泣いていたのを覚えています。ブラジルでの生活に慣れない私を気遣ってやさしくしてくれた日系 3 世のモトコちゃんとケイコちゃんを思うと懐かしい気持ちで胸が一杯です。

2017 年 2 月 12 日（日）10:00 ～ 11:40
クリエート浜松 2F ホール

浜松に縁のある外国人住民が、貴重な写真とともに自らの歴史を振り返ります。
なぜ私はここにいるのか。私は未来に何をつなぐのか。
一緒に思いを巡らせてみませんか？



フェスタ・ジュニーナ（収穫祭） ブラジル

日時：平成 29 年 2 月 12 日（日） 10:00 ～ 11:40

10:00 ～ 11:10 主催者挨拶（公益財団法人浜松国際交流協会代表理事 石川晃三）
来賓挨拶（浜松市長）

フォト・ストーリーテリング（写真を使った語り）

ブラジル、タイ、ペルー、中国、フィリピン出身の 6 名の発表者が、写真を使って過去・現在・未来を語ります。
彼らの人生に耳を傾け、浜松の多様性について一緒に考えてみませんか。

- ◆松下 パンティパ（タイ） 日本人の配偶者として来日。現在、子育てをしながら、定時制高校で工業を学んでいます。
- ◆大塚 千賀代（ブラジル） 子供の頃にブラジルへ渡った日系 1 世。日系コミュニティとブラジル社会の両文化を渡りました。
- ◆岡部 デリア（ペルー） 日系 2 世。第二次世界大戦中、祖父母がペルーからアメリカの収容所に移された話を聞いて育ちました。
- ◆中里 ユキエ（ブラジル） 日系 3 世。ブラジル人と結婚し、文化の違いに戸惑いながらも子育てや仕事に励みました。
- ◆五藤 幸来（中国） 技能実習生として来日し、その後日本人と結婚。日本語を猛勉強して、現在、高校で外国人生徒の支援をしています。
- ◆フジサキ アキコ アイラ（フィリピン） フィリピンと日本を行き来しながらフィリピンの中学を卒業。今春、定時制高校を受験します。

11:10 ～ 11:40 発表者との交流会（2F ホール前フロア）

思い出に共感したり、理解を深めあったり、将来の夢を語りあったり…
語りを詳しく聞きたい方は、交流会でどうぞ。

※フェア中は、2F ホール前フロアにて発表者の写真をパネル展示しています。

会場：クリエート浜松 2F ホール

入場：無料



母のパスポート（昭和 35 年）

第 7 回はままつグローバルフェア ホールイベント

写真で語る私の歴史～これまでの私とこれからの私～

平成 28 年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 浜松版地域日本語教師養成事業

後援：浜松市、浜松市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK 静岡放送局・浜松支局、K-mix、FM Haro!

協力：浜松市外国人学習支援センター、With U-Net、浜松版地域日本語教師養成講座実行委員会

公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)

静岡県浜松市中区早馬町 2-1 クリエート浜松 4F
Tel. 053-458-2170 Fax. 053-458-2197

PROFILE

01 大塚 千賀代 (ブラジル) Chikayo Otsuka (Brazil)

昭和27年大阪生まれ。父が CM を見てブラジル移住を決意し、昭和35年8歳の時に家族と共にブラジルに移住。ポルトガル語がわからず苦労していたところを、近所に住む日系人の女の子達に助けてもらいながら現地の学校へ通う。サンパウロ私立イデアル大学を卒業し、ブラジルでは社長室秘書、通訳、翻訳、国語教師の職に就く。30年間のブラジルでの生活を経て、平成3年日本へ帰国。現在、HICE にて勤務するほか、静岡文化芸術大学でポルトガル語講師も行っている。プライベートではイベントの MC として活躍。様々なボランティア活動にも参加している。



02 松下 パンティパ (タイ) Pantipa Matsushita (Thailand)

1982年タイのナコンラチャシマー出身。友達友達として知り合った日本人の男性と、男性が出張に来ていたタイで偶然再会。それからお付き合いが始まり、2007年結婚。来日直後は日本語がわからずふさぎ込んでいたが、このままではいけないと独学で猛勉強。徐々に日本語がわかるようになり、娘の幼稚園では卒業アルバム委員や卒園時の司会を務めることに。将来夫の仕事を手伝うために、浜松工業高等学校定時制へ進学。外国にルーツのある同級生らから、お姉さんのように頼られる存在。



03 岡部 デリア (ペルー) Delia Okabe (Peru)

1972年、ペルー・リマ市生まれの日系2世。ペルーで日本語教師だった祖父は、第二次世界大戦中アメリカの強制収容所に収容された。戦後ペルーに戻り、再び教壇に立ったリマの日本学校で、姉兄と共に、本人も8歳まで日本語を学んでいた。1980年代後半のひどいインフレと情勢不安の中で、日本へ出稼ぎに出た姉に会いに1993年来日。その後、茨城県でブラジル人の夫と出会い、結婚。息子に恵まれる。左手の手術をきっかけに、仕事一筋だったこれまでの人生を振り返り、現在は祖父とした約束を果たすため、日本語を学び直し中。



浜松市外国人住民数

(住民基本台帳による 平成29年1月1日現在)

国籍	人数
ブラジル	8,516
フィリピン	3,433
中国	2,482
ペルー	1,666
ベトナム	1,772
その他(76国)	3,791
総数(81国)	21,660
浜松市総人口	807,893

いろいろな文化・個性を持つ わたし、あなた、みんなで共に生きる ～多文化共生～

現在、浜松市には約2万2千人の外国人市民が暮らしています。その他にも、日本国籍を取った人や、外国人を親に持つ人、日本国籍だけど海外で生まれ育った人などを含めると、外国につながる人はもっと多くいます。浜松市はすでに多文化なまちなのです。そして、そのように様々な文化や個性をもつ人々がお互いの違いを認め合って共に生き、新しい社会をつくっていくことが多文化共生です。様々な個性をもつ「わたし」と「あなた」で新しい「みんな」の社会をつくっていく、それは、誰にとっても住みやすい社会になるはずです。まずはいろいろな人と出会い、文化を知り、交流することからはじめませんか。

04 | 五藤 幸来（中国） Yuki Goto (China)

1974 年中国の吉林省に生まれる。小学校教師や検査技師を経て、2010 年 10 月に来日。技能実習生として掛川で働いていた。来日中に日本人の夫と結婚。静岡国際言語学院で日本語を 2 年間勉強した。現在は静岡県立遠江総合高校で、中国人学生の日本語支援や通訳をするほか、企業の依頼で日本人に中国語を教えたり、中国人に日本語を教えたりしている。ときどき夫婦げんかをすることもあるが、自身と息子に幸せを呼ぶ日本名をつけてくれた夫に感謝している。



05 | 中里 ユキエ（ブラジル） Yukie Nakasato (Brazil)

1954 年ブラジルサンパウロ州生まれ。日系 3 世。幼少期から日本の文化に触れながら育つ。ブラジル人と結婚し、3 人の子どもの子育てをしながら仕事に奮闘、様々な苦境を乗り越える。1997 年 12 月来日。工場で働きながら家庭を支え、我が子の教育にも熱心に向き合う。来日時は日本語ができなかったが、懸命に学び、日本語能力試験 N2 に合格。現在は NPO 法人浜松外国人子ども教育支援協会に所属し、日本語教育支援や母国語教育支援に力を注いでいる。



06 | フジサキ アキコ アイラ（フィリピン） Akiko Aira Fujisaki (The Philippines)

1999 年生まれの 17 歳。父は日本人、母はフィリピン人。8 歳の時に、母と共に来日するもフィリピンの親戚や生活が恋しくて 3 ヶ月で帰国。フィリピンで母と離れた生活を送り、11 歳で再来日。母と一緒に暮らしたいという思いで必死で日本の学校へ通うも、周囲となじめず中学 2 年の途中で再び帰国。再び母と離れた寂しい気持ちをバネにし、フィリピンでは中学校を優秀な成績で卒業。2016 年、3 つの理由で再々来日。来日後は、日本語を猛勉強し日本語能力試験 N3 に合格。今春、定時制高校を受験予定。



日本語教師と外国人学習者が協働で行う 自分史作成プロジェクトワーク

HICE では、多文化共生を進めるための日本語教育を担う人材を増やそうと、文化庁より委託を受け「浜松版地域日本語教師養成講座」を開催しています。この「写真で語る私の歴史」は、講座の中の実践ワークの一つです。受講した日本語教師らは、外国人学習者と 1 対 1 で向き合い、母国での生活や来日の経緯、日本での苦労、将来の夢について、写真とともに自分史をまとめる作業を協働で行ってきました。対話をしながら築いた信頼関係は、今後地域で日本語教師として活動する上で、かけがえのない財産となるでしょう。今回、どの発表者からも、日本で生活するためには日本語が欠かせないという話が聞かれました。縁あって日本に住む彼らと共に。多文化共生のための日本語教育がさらに充実するよう、これからも取り組んでいきたいです。



公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)



なぜ私はここにいるのか。私は未来に何をつなぐのか。



ブラジルへのパスポート（昭和35年）

第7回はまつグローバルフェア ホールイベント
写真で語る私の歴史
～これまでの私とこれからの私～

浜松に縁のある外国ルーツの住民が貴重な写真とともに自らの歴史を振り返ります。
彼らの人生に耳を傾け、浜松の多様性について一緒に考えてみませんか。

2017年2月12日（日） クリエイト浜松2F ホール

10:10-11:10 フォト・ストーリーテリング（写真を使った語り）
ブラジル、中国、フィリピン、ペルー、タイにルーツのある6名が写真を使って語ります

11:10-11:40 発表者との交流会（2Fホール前フロア）

公益財団法人浜松国際交流協会(HICE)

静岡県浜松市中区早馬町2-1 クリエイト浜松4F
Tel. 053-458-2170 Fax. 053-458-2197

平成28年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 浜松版地域日本語教師養成事業

後援：浜松市、浜松市教育委員会、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松支局、K-mix、FM Haro!

協力：浜松市外国人学習支援センター、With U-Net、浜松版地域日本語教師養成講座実行委員会

H28 文化庁委託事業 浜松版地域日本語教師養成講座 (多文化共生理解のための公開講座) アンケート

2016 年 9 月 17 日～10 月 29 日

1. この講座をどこで知りましたか？

①広報はままつ 1 ②HICE NEWS 13

③チラシ 8 (職場・静岡国際交流協会の NEW Letter・U-ToC・ヒューマンアカデミー)

④HICE の HP 3 ⑤知人・友人から 3 ⑥その他 3 (ヒューマンアカデミー)

2. 講座の内容はいかがでしたか？

①難しかった ②少し難しかった 3 ③ちょうどよかった 27 ④少し簡単だった ⑤簡単だった

理由： 関心のあるトピックが多く、よかったと思います。

なんとなく。

多文化共生のワークショップの経験が少なかったから。

3. どの回が一番良かったですか？

2 回 **理由：** 講座、ワークの仕方が勉強になったから。

理由： 様々な立場の人の意見を知る事ができた。

理由： 現実にある問題に対して いろいろな立場の方と意見を出し合えたから。

3・4 回 **理由：** 実際の活動も取り入れながら、自分自身の価値観について振り返り、よりよいコミュニケーションの仕方について考えることができたため。

理由： 診断が楽しかった。

理由： 自分の考え方など、今まで知らなかったことがわかったから。

理由： アサーティブコミュニケーションについて理解できた。

4 回 **理由：** アサーティブコミュニケーションの実習ができてよかった。

理由： 仕事上、相談を受けることが多く、前向きな考えになってもらえるような言葉やサポートの方法を増やすことが課題として悩んでいた。自分の考え方の傾向がうかがえ、自分なりの「相手を理解すること」とは何なのか考えさせられるきっかけとなった。

5 回 **理由：** 多文化共生を重要と考える価値観は世界でも受け入れられているが、戦争やテロなどが原因で実現からは遠くなってしまう現実もあり、興味深かった。

理由： ワークショップ

5・6 回 **理由：** 政治的な側面は知る機会が今までなかった。外国籍の人の不利益は本人の努力等の問題ではないことが改めてわかった。

7 回 **理由：** 言語政策の説明がよく理解できた。

1・5・9 回 **理由：** 参加した回、全てが勉強になりました。

9・10 回 **理由：** ロールプレイで身をもって問題を共感できた。

理由： 自分が他の立場に立ち、考えることができ、勉強になった。

理由： 歴史的背景や現状（具体的数値）を知る事ができたためになった。ワークショップを通じ、チームの人と浜松の状況を話し合うことができてよかった。

9 回 **理由：** 現状理解。

10 回 **理由：** ワークショップのひょうたん島の内容が興味深かったです。

理由： このような形のワークショップは初めての経験だったので、とても楽しく、また勉強になりました。

理由： 実践的でわかりやすかった。

理由： 講座をうける前から一番気になっていたので、とても楽しみにしていました。

ぜひ本を買って、浜松インターナショナルスクールみんなの本としてシェアしたいと思いました。

理由： ロールプレイで具体的な感覚を持つことができました。

理由： 実際にいろいろな立場になって考えることで「それぞれ事情がある」ということが具体的にわかった。

4. 講座の感想、講師へのメッセージをどうぞ。

・個別では なかなか聞く機会に結びつかないお話をいくつも聞くことができてよかった。

・分かりやすい内容でした。「やさしい日本語」についても良く理解できました。

・大変勉強になりました。ありがとうございました。

・それぞれ専門的な立場から お話をいただき国家、世界レベルでの視点から具体的なレベルまで視野が広がったと感じます。

・現場に立たれている先生方等と一緒に勉強させて頂いたこと、そして講師の方々がいろいろな方向から研究なさっているお話をきくことができたので とてもためになりました。

・毎回興味深い講座でした。

・とても充実していました。

・講座の内容が基礎知識のものが多かったので、楽に学ぶ事ができました。

・浜松のおかれている現状がよくわかりました。日本語教育を通じて たくさんの方とお話できてよかったです。

・日本語ボランティア、教師として活動していく上で、必要な知識を得られました。

・普段、講義を聴けないような先生方の貴重はお話を聞けて大変良かったです。

・参加者の方々ともお話してみたかったです。

・現在、日本語教師になるべく勉強中ですが、机上の話だけでなく、実際の現場の話もいろいろと聞くことができ、とても勉強になりました。

- ・いろいろな先生の考え方が聴けてよかった。
- ・高齢化社会の中で 外国人の助けが必要な時代。この講座の重要性を感じました。
- ・私よりも多文化共生力のある人や最前線で活動している人が多かったので、とても刺激をいただくことができました。
- ・座学の配分が多めだった。
- ・知らないことが多く、勉強になりました。
- ・家庭の事情で思いのほか欠席が多くなってしまい残念でした。
- ・問題の渦中にいること、単純な解決策がないことが改めて認識され 思い気持ちになった。
- ・今後のために とても良い勉強をさせていただきました。
- ・「多文化共生」に縁があり、触れることができ、自分の知らないことがまだまだあることが分かりました。

5. これからどのような講座を受けてみたいですか？

・具体的な成功例の事例紹介とその分析、応用編のアイデア出し。例えば、3 回目 地方創生で成功事例として上げられた広島事例について（自分では調べたが）取り上げ、分析し、それを浜松や自団体に応用できることを皆でディスカッションするとか。（せっかくたくさんの参加者が集まっているので）

- ・言語学、文法
- ・当事者である外国人の生の声が聞ける機会があると参考になるのでは？と感じます。
- ・楽しみながら生徒が学ぶことができる方法。
- ・コーディネーターやファシリテーターについての講座。
- ・他団体や教育機関で取り組んでおられる活動について知りたいです。
- ・今後もこのような世の中の流れ、日本語教育の変化に合わせた内容の講座を受講したいです。
- ・このような多文化共生に関して詳しい教授の方々のお話をもっと聞きたいです。
- ・社会人向け大学の出前授業
- ・もっと現場のことを知りたいです。
- ・日本語ボランティアに必要な具体的なスキル（できれば 週末か平日の夜に開催してほしい。）
- ・外国人居住者の諸問題のいろいろ。

6. その他、お気づきの点やご要望をご自由にお書きください。

- ・とても貴重な勉強会を企画下さり、ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

- ・活動の多い講座で楽しかったです。ありがとうございました。
- ・私と同じような多文化共生に力を入れている人や理解している人たちの集まりだったので、とても居心地が良かったです。
- ・秋に集中すると他の用事をバッティングするので年間を通じてバランスよくやってほしい。
- ・有名な先生のお話を聞けて、とても良い経験になりました。
- ・ありがとうございました。少しでも仕事に生かして生きたいと思います。

お住まい： 浜松市内 **21** 浜松市外 **6** 未記入 **3**

性 別： 男性 **8** 女性 **19** 未記入 **3**

1. 今日の発表会は楽しかったですか。

とても楽しかった ←5 4 3 2 1→ ぜんぜん楽しくなかった

5 (17人) 4 (6人) 3 (1人) 2 (1人) 1 (人)

2. 今日の発表会でよかったことはなんですか。

- ・地道に調べてあり、たいへん良かった。意外な事がわかりました。
- ・日本人には、なかなか気にならない事が気になっておもしろかったです。
- ・データと自分の国との比較、自分の考えもまとめられて、びっくりしました。
- ・日本について理解しようとしていること。
- ・外国の人が日本人のことをよく分析しているのがわかった。
- ・外国の方々がいろいろな視点で日本を見ていることがわかり、いろいろな考え方を知る事ができたこと。 また、よく勉強されていて頑張っておられることに感銘を受けました。
- ・発表資料がとてもきれいに作ってあり、感心しました。発表後、直接本人とやりとりできるのは良かったです。サポート側の先生たちへの感謝の気持ちを言う方が多く、時間を掛けて丁寧に作られた発表会だなと感じました。

3. 今日の発表会で残念だったこと、もっとこうしたいほうがいいと思うことはなんですか？

- ・自国との比較をもう少し多くした方が興味をもてる。
- ・発表（調査）のスタイルが5人とも同じだったが、もう少しバリエーションがあればよいと思った。
- ・各発表者の思いが発表の題名に対してもっとあったと思いますが、なぜそのような題を選んだかを話してくれると日本人が考えても見なかったことを教えてもらえたのではないかと思います。

4. 各個人の発表についていかがでしたか？印象に残ったことを教えてください。

「なぜ日本の親は子どもと一緒に住まないのか」 マベル（ペルー）、ピン（タイ）

- ・スピーチが上手。
- ・私も日本の核家族化を心配しています（大切なことだと思っています）

「日本の女性はみんな細い」 パーワニ（インド）

- ・ 食事について色々わかり、運動も意外とやっているのがわかった。
- ・ テーマの観点が面白かったし、うまくまとめられていたように思います。

「なぜ日本の女性はいつも化粧をしているのか」 フン（ベトナム）

- ・ 調査前の予想と調査後の結論にしっかり言及できていた。
- ・ 日本の女性も実はお化粧が好きなわけではなく、マナーのためにしているのだという追求をよくしていると思う。

「いじめの問題」 ユリアナ（インドネシア）

- ・ インドネシアのいじめの対策がしっかりしていて、すごくいい案だと思いました。日本もそうなってほしいと思います。
- ・ 日本でのいじめは自分自身でも良く分からない。外国人にとっては切実な問題だと思います。

「どうして日本の子どもは一人で通学するの？」 キャシー（中国）

- ・ 落ち着いて発表できていたので、こちらもゆったりとした気持ちで聞けました。子どもを持つ親として、日本では歩いて登校することが不思議なことなんだと改めて思いました。
- ・ 私も子ども一人で学校へ行くことに関心があります。

5. そのほか、感想があればお願いします。

- ・ みなさん、とてもお話が上手で、聞きやすかったです。発表内容がどれも充実していました。色々教えてくださり、ありがとうございました。
- ・ 新しい授業形式を短期間でよく形にされたと感心しました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・ 半年で上手になっている。
- ・ 発表者のいろいろ調べた資料も欲しかったです。
- ・ みなさんすばらしい発表で、自分の刺激になりました。

第7回グローバルフェアホールイベント 「写真で語る私の歴史」アンケート集計

■ このイベントを何で知りましたか？

HICENEWS 25 ホームページ 4 友人・知人 30

チラシ・掲示板 13 (場所：クエート / U-ToC / 小学校 / 磐田南高校 / 図書館)

その他 7 (学校に届いた案内 / SIR JOY PRESS / 主人 / 養成講座 / 祖母 / 親 / U-ToC / 発表者 / 家族 / 関係者 / 案内状 / 地域日本語教師養成講座参加者)

■ フォト・ストーリーングテリングはいかがでしたか？

たいへん良い 61 良い 16 普通 1 あまり良くない

■ フォト・ストーリーングテリングの感想をお書きください。(原文ママ)

- 様々な国の人の話が聞けてよかったです。
- 中学生の息子と拝見しました。大人も子どもも日本人も外人もいつの時代も大変だと改めて思いました。皆さんのお話を伺ってなんとかすればなんとかなると安心しました。
- パンティパさんがよくてよかったです。みんなよかったです。
- ひとりひとりの人生の一通を拝聴することができ、自分にできることは何か考える機会となりました。
- それぞれの人生がとてもわかりやすくまとめてあり、良い勉強になりました。
- 毎日大変だったなと思った。
- 大変な体験をして日本での生活に慣れようとしてきた皆さんの話がすばらしいと思った。
- いろいろな人の人生を感じさせて頂き感謝です。涙 涙でした。
- 外国人の多く住む浜松で生活する中で、このような外国の方のお話を伺え大変有意義でした。
- 様々な困難に遭いながらも前向きに生きていく姿に感動しました。
- 皆さんの苦勞とがんばりが良く分かりました。前向きに生きている強さを感じました。私たちもこのような強さ、たくましさを持ちたいものです。
- 自分とは違う人生の歴史を知る事はとても貴重なことだと感じました。
- いろんな国の人のことが聞けてよかったです。
- 写真があることでとても分かりやすく、伝わりやすくてよかったです。
- 写真がその当時の様子をよく伝えていてわかりやすかったです。発表者の人達の素直な意見も感想もよかったです。みんな前向きにがんばっていて勇気をもらいました。
- 養成講座で選ばれた方々が、中間発表から更に工夫や練習を重ねてとても完成度の高い発表になっていたのに感心しました。実はこのイベントに参加したのははじめてですが、日本人も外国人にも是非みてほしいと強く思いました。実体験にあるからこそ与える感

動も大きいですね。

●それぞれの方々から多くのことを学ばせて頂きました。このようなお話をいろいろな学校で多くの日本の子供達に聞いて欲しいと思いました。ありがとうございました。

香川には外国の方々が浜松よりも少ないのですが、それゆえにこうしたお話を聞く機会が必要だと感じました。日本社会全体のこととして考える場になります。

●フォトにより誰かが分かりやすくなり、背景が伝わりやすかったです。言葉のたけより数段良い。

●分かりやすい画像で直ぐに分かる説明。フォトの背景が明るく写真が良く見える。

●みなさん大変上手でした。

●感動しました。またよろしくお願い致します。

●人生は色々あっても、前向きに考え困難を乗り越えながら、みんなそれぞれがんばっていらっしゃること感じることができました。ひとりひとりのメッセージとても良かったです。

●自分の親の話をきけてとても良かったです。

●すごくがんばったこと

●みなさま、真剣にスピーチしており、本当に感動しました。私は岡部さんの発表を聞き、とても心に響きました。とても良かったです。

●良かったと思います。

●発表準備に関わってきたので、胸が熱くなりました。発表者の熱い思い、強い意思が今日の日本での成功だと感じました。(途中ですが)

●ひとりひとりの発表が重く、でもそれだからこそ皆さん考え方が前向きで強くなれたと感じました。

●出場者皆さんの前向きな生き方に感動しました。

●毎年聞かせてもらっていますが、今年は特に感動する内容のものばかりで、胸が熱くなり、涙無しには聞かれないものでした。国も様々で生きてこられた経緯もそれぞれ全く異なりますが、日本にきてからの苦労や努力には共通するものがあり、皆さんの心のうちが良く伝わってきました。

●6名の発表者の方、皆様の発表が全てすばらしかったです。人生とは何かということ皆様がそれぞれが知っているように感じました。その上で、前向きで大変努力をされていて、そのような皆様のことを知る機会を持つことができて良かったです。

●面白かった。

●とても興味深く聞きました。

●どれも大変感動的なスピーチでした。

●最後にステージで回想の場面について、とても良かったです。スピーチのないようにちなんで司会者が質問インタビューしてほしかったです。例えばプロ野球の試合後のお立台インタビューのようなイメージ。「〇〇先生に感謝します。」は不要だと思いました。

- ご本人、支援者の方々の頑張りが良く分かりました。皆さん自分をしっかりもっていらっしゃる。堂々としていて、私も元気をいただきました。
- 皆さん緊張しながらも、しっかり発表できていてその内容もすばらしかったです。
- 参加者の皆さんのお一人お一人の背景や人生が参加者の言葉で語られていてとても良かった。
- それぞれの発表者の内容も良かったですが、なにより私たちが学ぶ事が沢山ありました。
- 一人ひとりがすばらしい発表でした。人生の困難を乗り越え、前向きに進もうとしている皆さんの姿勢に感動しました。そして最後の皆さんからのメッセージがとても印象的で心に響きました。毎年新しい発見があるなあと思います。本当にありがとうございました。
- みなさんそれぞれの人生のお話が聞け、自分自身について色々考えることができました。特にフジサキさん、お父さんが見つかるといいですね。
- 異国からの移住が大変ということを学べてよかった。
- 非常に感動しました。ありがとうございました。
- たくさんの人生があると思った。
- みなさんの人生はすばらしいと思います。発表できる場所を設けることに意味がありますね。毎年続けて欲しいです。
- とても良かったです。話を聞いていて泣けてきました。
- 発表者の歴史を通じて、それぞれの国の文化を知る機会を与えてくれありがとうございました。写真がリアリティーを語り感銘を受けました。袋井でもこのようなすばらしいイベントを開催したいと思います。
- 写真があることによって、とても分かり易くて、一人ひとりのストーリーに感動しました。
- 様々なストーリーがあり、どれもとても感動しました。日本にいる外国人の方々にもっと住みやすい浜松市になってほしいと思いました。自分自身も何ができるのかしっかりと考えたいと思います。ありがとうございました。
- みなさんの苦勞がよくわかり、私も勇気をいただきました。ありがとうございました。
- 今まで司会や運営に従事していた為、今日が皆さんの発表内容に注意を向ける初めての日でした。バディと共にここまで作り上げたこと、その努力に拍手を送りたいです。このイベントは本当に多文化共生を進める上で、貴重な機会だと思います。やはり外国人の皆さんの話を聞きたい！知りたい！という気持ちが大切だと感じました。
- 本人の語りに添って説明いただくことによって、当時の思いが伝わってきました。とても感動しました。ストーリーリングから学ぶ事、多文化に触れることの大切さを知りました。本人から語って頂くことの大切さを感じました。
- 異文化の中で、生きていくことの大変さ、難しさが体験を通じてよく伝わってきました。その人自身のがんばりが一番ですが私たちができることはしようと改めて思いました。多文化共生っていうのは簡単ですが、一人ひとりの心がけが大切ですね。
- 初めて知る事ばかりで大変よかった。

- とても感動しました。みなさんすばらしい発表でした。
- 貴重な体験を^パ 祢を通し赤裸々に話されてすばらしいと思いました。勇気ある生き方に感動しました。苦難を乗り越えたすばらしさです！自身の生き方を反省する機会になりました。
- 当たり前だと思っていることに気づき、感謝の気持ちが生まれる。
- 色んなことがあって、浜松に来たこと。来る理由は何であれ、ここで生きていく意志が感じられたのがよかった。
- 写真があり、わかりやすかった。移民の方たちの苦勞が具体的にわかった。
- 写真を見ながら説明があり、ストーリー性もあり分かり易かったです。成功例を聞くのは心地がよいですが、もう少し苦勞話とその解決方法に触れてもらって中身が濃くなると思いました。（皆さん苦勞されたことは良く分かりましたが・・・中里さんはそれを発表されよかったです。苦しいときの思い出をはなしてもらうのは酷とは思いましたが。）
- さまざまなきっかけで浜松に来て、自分の人生のことについて母国語ではない日本語でスピーチをした6人の言葉はとても伝えたい気持ちが伝わってきました。本当はもっと身近にもこのような人がいるんだと思い、関わりを持ちたいと思いました。
- すごく緊張しました。
- みなさんととても素敵なお話でした。それぞれすばらしい人生があります。人生について考えさせられた時間でした。みなさんに負けないように生きて生きたいと思いました。
- それぞれ発表者の方の人生を知ることができ、本当によい機会でした。
- 発表者の皆さんがそれぞれ大変な思いをされてきたことを前向きに捕らえている姿に感動しました。お話が伺えて良かったです。
- 感動して涙が出た。皆いろいろな人生を生きていると思い、前向きにがんばろうと思った。
- 皆さんの日本滞在中の気持ち等聞けてよかった。
- みなさんの苦勞を知りました。そんな中でも前向きに生きる姿勢に感動しました。「やればできる！」というデリアさんの言葉が印象的でした。
- 本人の苦勞と努力が良く見られてすばらしい！！
- 「分からない」ことも遠慮がちに訊ねる人々が写真を助けとして自分を主張する場を作ることがあることに意義を感じました。外国人という枠のみではなく一人ひとりに歴史があるという生身の人として目の前にいる思いがします。

■ その他お気づきの点やご要望などご自由にお書きください。(原文ママ)

- 男性は、弱音を見せられない部分もあり、男性も大変だと思います。男性の方の発表も聞いてみたかった。
- 初めて参加しました。多文化共生の大切さ現状を体験することができました。
- 改めて、それぞれの人生があると認識できました。少しでも力になりたいと思いました。
- 来年もぜひこのような話を聞きたいです。
- たいへん良い企画だと思います。続けて欲しいと思いました。
- BGM が入ったのはとても良かったです。隣に子どもさん連れのお母さんが座っていらっしゃいましたが、話を聞いてハンカチで涙をぬぐっていらっしゃいました。こういうお母さんが増えるといいですね。
- 動画を up 希望（全て聞けなかった）
- はっきりした声で言葉の単語がわかりやすい。（発音が良い）
- 浜松での生活がんばってください。
- 楽しかったです。
- 引き続き来年、再来年と続けて欲しい。
- ピンチがチャンスと再度思った。
- 規模や体制の差はありますが、HICE の指導を得て、西部地域の多文化の質を高めていきたいと期待いたします。
- 去年にはなかった発表後にステージ上で発表者への Q&A がとても良かったです。
- 大塚千賀代さん感謝です。
- 発表者が女性ばかりであったので、男性もいれば……。もしくは夫婦、家族で出てもらうというのでもいいかもしれません。
- とても良い企画だと思います。これからも続けていって下さい。
- もう少しフリーOR ナチュラルにやってほしかった。
- デリアさんの成果発表後の伸びをまわりから褒められました。最後の一週間は U・ToC の担当者の力です。語るアドバイス、指導がすばらしかったと感謝します。（バディとして）

語学留学生増、県内しわ寄せ

日本語教師 確保ピンチ

国内の日本語学校に通う外国人留学生の増加に伴って、大都市圏などで日本語教師の不足が深刻化している。県内でも人材確保に苦慮する日本語学校が始められている。浜松市で専ら外国人を対象に日本語教室を開く団体は「地域で指導できる人材が枯渇する」と、しわ寄せを懸念する。

(浜松総局・青島英治)

浜松の学習支援センター

日本語教育振興協会によると、国内の日本語学校の留学生は2015年度に初めて5万人を超えた。県内でも増加傾向。県西部や東



共生を目的に在留外国人の指導に当たる日本語教師。人材の確保が年々難しくなっている＝9月上旬、浜松市西区雄踏町の市外国人学習支援センター（写真の一部を加工しています）

外国人の受け入れに詳しい県西部の人材派遣会社の担当者は、留学は技能実習より手続きが簡単なため、週28時間以内の労働が認められている「留学生」として来日し、飲食店やコンビニなどで働くアジア系の若者が首都圏で増えている実態を明かす。「借金を抱えて来日し、日本語をろくに学ばずに母国に帰る。働き手不足を補う企業の思惑で受け皿となる日本語学校が乱立している」と語る。

10～60代の在留外国人向けに日本語教室を続けている浜松市西区の市外国人学

不足解消へ養成講座

学習支援センターは最近、各所から教師の紹介を求められている。教師10人が非常勤で指導に当たる同センターでも教師確保に苦心する事態に陥っているという。

危機感を持った同センターは9月から、全国初の試みとして「地域日本語教師養成講座」を始めた。日本語教師の有資格者12人が、市内の外国人社会の課題や施策を学ぶ実習を行い、地域での共生教育の重要性を伝えている。国が外国人労働者の受け入れ拡大を示唆する中、講座の担当者は「地域で専ら外国人を対象とする日本語教師の養成は、とても大切。共生の志のある教師を育成しなければ、将来、地域でトラブルが起きかねない」と語り、国による早急な態勢整備を求めている。

メモ

日本語教師は、日本語を母語としない外国人らに日本語を教える民間資格「日本語教育能力検定試験」や「日本語教育必須科目420時間の履修」などを採用条件にする学校が多い。文化庁によると、2014年度時点の国内日本語教師数は約3万3千人。日本語学

校や各地の国際交流協会などの在籍者が半数を占めるが、大学や研究機関の在籍者も多い。県西部の日本語教師の女性(29)は「資格取得のハードルは高いが、非常勤採用で生活が安定しない。志はあっても別の職業を選ぶ人が多い」と待遇改善の必要性を訴える。

平成 28 年 11 月 12 日 (土)

中日新聞
(朝・夕)

静岡新聞
(朝・夕)

新聞
(朝・夕)

日本語教師が現場実習

中区ベトナム人と料理で交流

浜松市外国人学習支援民間の日本語教室や複
援センター(西区)が、数の外国人団体を訪問
開く「浜松型地域日本
語教師養成講座」の現
場実習が市内各地で行
われている。このほど、
受講している日本語教
師5人が中区の高台協
働センターで行われた
県ベトナム人協会の料
理教室に参加し、実情
を学んだ。



ベトナム料理を楽しみながら、日本語で交流
する日本語教師(左)ら
＝浜松市中区の高台協働センター

し学んでいる。
今回は市内在住のベ
トナム人らでつくる同
協会の取り組みを視
察。料理教室は日本語
の学習と地域の日本
人との交流を目的に年2
回開催。同日は同協会
メンバーと日本語教師
が協力しベトナムのお
汁粉「チャー」と揚げ
春巻きを手作りした。
事前配布された日本
語のレシピで予習した
ベトナム人に対し、日
本語教師が日本語でベ
トナムの風習や料理の
こつ、普段の暮らしぶ
りを尋ねた。完成後は
全員で出来たての料理
に舌鼓を打った。日本
語教師の女性らは「穏や
かな雰囲気の中、ベト
ナム料理と日本語を教
え合つことができる」と
評価した。

平成28年12月17日(土)

中日新聞
(朝・夕)静岡新聞
(朝・夕)新聞
(朝・夕)

解説・主張 SHIZUOKA

外国人受け入れ拡大

不足する日本語教師

深刻化する労働力不足を背景に、政府が外国人の活用を進めようとしている。ただ、外国人が日本で生活するのに欠かせない日本語を指導する教師は、定住外国人の多い浜松市などでも不足し始めている。外国人の受け入れが加速する一方で、定住者対策は置き去りにされているとも言える。共生社会の実現には、日本語教育を重点に据えた総合的な受け入れ体制の構築が求められる。

国は定住者を除き、外国人雇用を専門的な分野に限定している。しかし、本来は発展途上国などの人材育成が目的である外国人技能実習制度が、担い手が不足する分野の労働力確保に利用されている実態もある。最近では、規制の多い技能実習制度を避けて週28時間以内の労働が可能な「留学」名目で来日し、サービス業や飲食業の後間営業を担うケースも起きているという。留学主の受け皿になる日本語学校が首都圏などで次々と設立され、地方都市でも日本語教師が不足する事態を招いている。

政府は部分的に農業での就労を認める方針を固めたほか、今後技能実習に「介護」も加わる。地方でも人材不足が深刻化する介護現場での受け入れ拡大は全国への波及効果大きい。その一方で、過度な増員が日本語教師の不足を加速させる

共生社会へ体制構築を

懸念もある。

バブル期の1990年、人手不足を補うため、国は日系人に就労を認め、浜松市では外国人が激増してトランプも頻発した。外国人集住地域だけの問題と片付けられ、共生施策の鍵を握る日本語教育は今も学校教育や支援教室など地域の自助努力に委ねられている。

浜松国際交流協会（JIC、中区）は今年から、地域に根差した日本語教師を擁起し、養成講座を始めた。人材不足の歯止めを期待したいが、局所的な取り組みでは効果は限られ

る。地位や育成制度の確立など国全体で人材確保に取り組むべきだ。

人口減少に伴い、今後も外国労働者の需要は高まるだろう。日本語教育に十分な投資をせず、低賃金の短期雇用の穴埋めに外国人材を充てる場当たり的な政策を続ければ、90年代に浜松で起きた差別問題やトランプルを全国で引き起こし、排外主義の増長を招きかねない。共生社会の実現には、多様な価値観を認める日本人側の共生教育も欠かせない。

（浜松総局・青島英治）



外国人が暮らす上での地域課題を学ぶため、実習に参加する日本語教師（左端）ら＝12月上旬、浜松市中区

静岡新聞

平成28年12月22日(木)

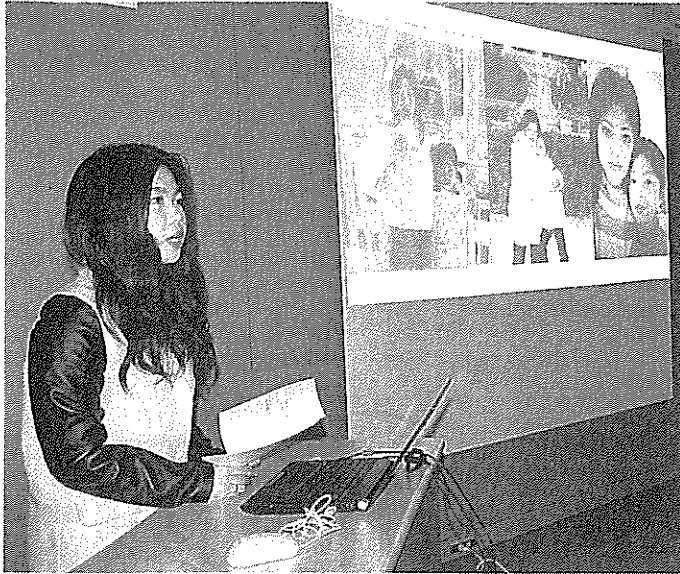
日本語で家族のルーツや来日経緯

在住外国人が自分史紹介

中区 12日のフェアでも

県西部在住の外国人が日本語で自分の歩みを紹介する「写真で語る私の歴史」発表会が4日、浜松市中区のクリエイト浜松で開かれた。7カ国の8人が家族のルーツ、来日の経緯、日本での苦労や将来展望などを自らの言葉で伝えた。このうちの5人は同所で12日に開かれるグローバルフェアでも発表する。

(浜松総局・青島英治)



写真とともに人生やルーツを振り返る発表者
＝浜松市中区のクリエイト浜松

浜松国際交流協会の「浜松版地域日本語教師養成講座」(文化庁委託)を受講している日本語教師と在住外国人が2人一組で発表内容を作成した。移民の背景を知ってもらうとともに、在住外国人には人生を見つめ直しながら日本語上達につなげる狙いがある。

フィリピン出身のフジサキアキコさん(17) Ⅱ中区Ⅱは家族写真を示しながら、学校に

なじみずに苦しんだ小中学校時代を振り返った。昨年5月、大切な母と暮らすために再来日。定時制高への進学を目指すフジサキさんは「苦しかった事には理由がある。私は強くなった」と語り、名前と誕生日しか知らない日本人の父親を探す希望も口にした。

ペルー出身の日系2世岡部アリアさん(44) Ⅱ南区Ⅱは他界した祖父が1930年に18歳で同国へ渡り、日本人学校校長などを務めた足跡を紹介。「日本に行ったら、日本語を勉強する」と約束した思い出を披露した。

平成 29 年 2 月 6 日 (月)

中日新聞
(朝・夕)

静岡新聞
(朝・夕)

新聞
(朝・夕)